

全国学力・学習状況調査について

秋田県教育委員会

1 調査結果について

概 観

- ・ 今回の本県の調査結果は、学校教育を中心に、家庭や地域の教育力及び県内大学からの協力などの成果が総合的に表れたものととらえている。
- ・ 本県学校教育が目指すものは、「豊かな人間性をはぐくむ学校教育」であり、「思いやりの心を育てる」、「心と体を鍛える」、「基礎学力の向上を図る」などを柱に据えて、各学校における授業改善に取り組んできた。
- ・ 本県では、平成5年度から、学校教育共通実践課題として「ふるさと教育」を実践してきた。昭和61年度から取り組んできた「心の教育」を充実・発展させたものであり、これを通して、豊かな心の育成や学習意欲の高揚、自ら学び、自ら考える力の育成などを図ってきた。
- ・ また、昨年度の「みんなの登校日」において26万人もの方々が学校に足を運ばれたことにも見られるように、保護者や地域の方々の学校への積極的な協力態勢も本県学校教育の特色としてあげられる。

教科に関する調査の結果

概要

- ・ 全国の状況と比較した場合、本県の小学校6年生と中学校3年生の国語、算数・数学の学習状況は、おおむね良好な状況にあると判断しているが、知識・技能等の「活用」に係る問題に着目すると、小・中学校ともに今後一層力を付けていく必要がある。

全国の平均正答率との差

| 教 科 | 小学校 6 年生 | 中学校 3 年生 |
|-------------|-----------------------------|----------|
| 国 語 A(知識) | + 4 . 4 <small>ポイント</small> | + 3 . 8 |
| 国 語 B(活用) | + 7 . 0 | + 5 . 0 |
| 算数・数学 A(知識) | + 6 . 3 | + 5 . 6 |
| 算数・数学 B(活用) | + 5 . 0 | + 4 . 7 |

児童生徒質問紙調査の結果

概要

- ・ 全国の状況と比較した場合、本県の小学校 6 年生と中学校 3 年生の学習意欲や生活習慣は、いくつかの課題は見られるものの、全体としては望ましい傾向が見られる。

全国の平均値との差（「している」「どちらかといえばしている」の合計）

| 上回っている主な項目 | 小学校 6 年生 | 中学校 3 年生 |
|---|-------------------------------|-----------|
| 家で学校の授業の復習をしていますか。 | + 3 4 . 4 <small>ポイント</small> | + 2 3 . 9 |
| 勉強する時間を自分で決めて実行していますか。 | + 1 0 . 3 | + 1 0 . 2 |
| 「総合的な学習の時間」の授業では、新しいことを発見できると思いますか。 | + 7 . 1 | + 1 5 . 6 |
| 体育の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、運動・スポーツをしますか。 | (「2時間以上」の割合) + 1 4 . 9 | + 1 2 . 7 |
| 今住んでいる地域の行事に参加していますか。 | + 1 5 . 4 | + 9 . 2 |
| 家の人と普段、朝食を一緒に食べていますか。 | + 6 . 2 | + 1 0 . 7 |
| 家の人と学校での出来事について話をしていますか。 | + 2 . 0 | + 3 . 9 |

| 下回っている主な項目 | 小学校 6 年生 | 中学校 3 年生 |
|-----------------------------|-------------------------|----------|
| 家で食事をするとき、テレビを見ないようにしていますか。 | - 4 . 8 ^{ポイント} | - 3 . 5 |
| 家の手伝いをしていますか。 | - 3 . 1 | - 5 . 2 |

学校質問紙調査の結果

概要

全国の状況と比較した場合、少人数授業のほか、放課後や長期休業中の補充的な学習の支援などにおいて、各学校の積極的な取り組みがうかがえる。

全国の平均値との差

| 上回っている主な項目 | 小学校 6 年生 | 中学校 3 年生 |
|--|---|----------|
| 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していますか。 | (「はい」の割合) + 20 . 5 ^{ポイント} | + 22 . 2 |
| 習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにしていましたか。 | 国語 (「行った」「どちらかといえば行った」の合計) + 15 . 7 | + 9 . 8 |
| | 算数 数学 + 13 . 6 | + 9 . 3 |
| 少人数指導を行うための学習スペースはありますか。 | (「十分ある」「ある」の合計) + 7 . 6 | + 12 . 8 |

2 県教育委員会の取り組みについて

学校教育の活性化に係るアンケート

学校教育に関する保護者の声を教育施策及び学校運営の改善に生かす。

- ・ H 1 0 中学校の保護者を対象に実施（抽出調査）
- ・ H 1 1 小学校の保護者を対象に実施（抽出調査）
- ・ 中学校 小学校 高校・特別支援学校の順で継続実施

少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）

子どもの個性を生かし、子どもの多様性に応える教育活動を展開する。

- ・ H 1 3 から実施
- ・ 少人数学級（小学校 1・2 年、中 1 年）
- ・ 少人数授業（小学校 3・4・5・6 年、中 2・3 年）

学習状況調査

少人数学習推進事業等の成果と課題を把握し、各学校の授業改善及び県教育委員会の教育施策の改善に生かす。

- ・ H 1 4 から毎年悉皆で調査（調査対象小 4～中 3）
- ・ 調査結果を分析して報告書にまとめ、学校に配布し、授業改善に活用

科学する心を育む夢プラン事業

直接体験を通して子どもたちの科学的な見方や考え方を高め、主体的に問題解決する資質や能力を育成する。

- ・ H 1 2 から実施
- ・ サイエンスキャンプ（小・中学生 80 名ずつ 2 回）
- ・ おもしろ理数教室（年間 15 回、土・日・夏休み）

「英語とコンピュータが使える秋田の子ども」育成事業

中学校卒業までに英検 3 級程度、高等学校卒業までに英検準 2 級～2 級程度の実践的な英語力を育成する。

- ・ 英語コミュニケーション推進班の設置（高校教育課内、H 1 6～1 8）
- ・ 英語能力判定テストの実施（中 2～高 2）

中学校を卒業するまでにコンピュータや情報通信ネットワークを学習に活用できる程度、高等学校卒業までに、職場や進学先で活用できる程度の技能を育成する。

- ・ 情報学習支援事業（支援員の派遣、H 1 3～1 6）

算数・数学学力向上推進事業

日常の授業改善についての具体的な指導・助言や評価問題の作成を行い、「分かる」「できる」授業を実現し、基礎学力の向上を目指す。

- ・算数・数学学力向上推進班の設置（義務教育課内、H17～）
- ・単元評価問題の配信（小・中学校全学年分）

学校・大学パートナーシップ事業

秋田大学の教員や大学生の支援により、児童生徒の学習意欲の喚起と学習機会の拡充を図る。

- ・大学生学習チューター（放課後や長期休業中の学習相談の支援）
- ・大学グループ出前授業（専門性を生かした、魅力ある授業の提示）
- ・学校まるごとパワーアップモデル校（大学教員の指導助言を生かした学校経営改善）

3 結果の活用について

- ・全国調査の意義と目的は義務教育の機会均等や教育水準の確保を把握し、成果と課題を検証するを踏まえて、教育指導や教育施策等の改善を図るということである。
- ・実施主体は国（文部科学省）、参加主体は市町村（教育委員会）ということから、県教育委員会は、指導助言する立場にならざるを得ないが、国が都道府県単位の結果数値等を公表したことを踏まえて、県教育委員会としての見解を述べるものである。
- （1）各市町村別、学校別の結果については、公表を禁じている国の実施要領に反して、また、参加主体の各市町村教委の了解を得ないで、県教委が公表することは、仕組み上、できないものである。

しかし、

- (2) 時間の経過とともに、各市町村や学校の状況は何らかの形で知れ渡ることになる可能性がある。また、調査結果で測定できるのは、学力の特定の一部であり、さらに、測定値は固定されたものでなく、今後の指導や取り組みによって大きく変化し得るものである。

したがって、逆説的にはなるが、数値が一人歩きし、学校の序列化や過度な競争の弊害を少なくするためにも、子どもたちの学力等の現状と課題を、保護者や地域と共有し、一刻も早く改善に向けた実行に踏み出すべきであると考えます。

したがって、

- (3) 校長は、教職員や保護者、学校評議員等に、自校の状況について、結果数値等を説明し、到達していると判断できる領域については一層の充実・伸長を図るとともに、不足していると判断できる領域については、保護者や地域とも課題を共有し、速やかに指導方法の改善に取り組む必要がある。

同時に、

- (4) 県教育委員会と各市町村教育委員会は、連携を密にしながら、調査結果を検証し、指導方法等の改善方を図る機会を提供し、必要に応じて地域や学校を重点的に支援することが重要である。

県教育委員会としても長期的視点と短期的視点とを併せ持ちながら学習環境の改善に努めて参りたい。

4 その他

- ・ 43年ぶりで実施された今回の学力調査は、全国で98%の学校が参加し、採点は外部の機関で行われたものであり、かなりの客観性が保証された調査である。今後、本調査と本県の学習状況調査を併せて学力向上に活用できるように工夫していきたいと考えている。
- ・ 本県としては、今後もぜひ、全国学力・学習状況調査が継続して実施されることを希望するものである。